

## ツアーの見所紹介

### ●千葉県立関宿城博物館：関宿三軒家 143-4

平成7（1995）年11月に県立博物館として開館した。明治初期に廃却された関宿城の天守閣（御三階櫓）は、江戸城の富士見櫓を模したと伝えられていることから、当博物館の3層4階の模擬天守閣は、富士見櫓を参考に建てられている。

### ○関宿城跡：関宿町

本丸、二の丸、三の丸、発端曲輪、武家屋敷等が配されていた。明治4年（1871）に関宿藩が廃止され、同7年（1874）頃に解体されたといわれている。本丸の約1/3は河川改修により堤防の下に埋もれたが昭和40年（1965）に本丸跡の一部を整備し石碑が建立された。

### ○鍵の手十字路：関宿町

城郭内にあった場所で、東側の搦手門から北西に伸びる通りと、南側の大手門から三の丸に北上する通りが交差した場所で、敵が直線的に攻め込めないよう、道をずらして鍵の手状につくられたと伝わる。

### ○土塁跡：関宿町

大手門付近に残る外堀跡で、発掘調査により城の外側をめぐる土塁の幅が8メートルほどであったことが確認されている。

### ○関所碑

江戸時代、江戸川と権現堂川の分流点に関所を設け通行人や船荷改めが行われた。寛永8年（1631）に関所の管理が関宿藩に委ねられ、幕末まで関宿藩士が派遣され在番し、江戸の治安を担うと共に、川関所として重要な機能を果たした。関所は、江戸川の右岸、現在の大字西関宿にありました。

### ○随庵碑：関宿台町

関宿藩中老船橋随庵は、嘉永三年（1850）に洪水などで関宿城内に溜まった水を排水するために関宿江戸町から葦内までの約20キロメートルに及ぶ「関宿落堀」を完成させた。これにより治水や灌漑にもえきをもたらした。石碑は明治28年（1895）に建立された。

### ○昌福寺：関宿台町 257

天長5年（828）、空海により現在の茨城県古河市に創建され、長祿年間（1457～1459）に梁田氏によって現在地に移された。本堂右手にある不動堂は文化15年（1818）頃に建てられたもので、関宿藩主久世家の祈禱所であった不動院にあったものを昭和34年（1959）に移築したもの。見事な彫刻は後藤安五郎常善の作。

### ●實相寺：関宿町 2140

神亀元（727）年に行基により現茨城県古河市に創建され、後に日蓮宗に改められたお寺。長祿元（1457）年梁田氏が関宿城に入城した時、関宿の地に移された古刹。関宿藩主であった久世家の歴代藩主と奥方の位牌が安置されている。鈴木貫太郎翁夫妻の墓もある。

### ○宗英寺：関宿台町 57

慶長元年（1596）松平康元により創建された。墓所には康元や古河公方足利晴氏（1508～1560）、船橋随庵の墓がある。

○光岳寺：関宿台町 2946

天正 18 年（1590）に松平康元が母於大の孝養と子孫繁栄を祈り建立した。参道途中にある「絵延命子育て地蔵尊」は、台座を含めると 4 メートルほどあり、康元が於大の方の供養のために建立したもの。境内には第 7 代藩主牧野信成が父康成のために建てた供養塔や、関宿藩士で金納化の杉山対軒の顕彰碑がある。

●鈴木貫太郎記念館：関宿町 1273

終戦時の内閣総理大臣として戦争終結に果たした功績を広く紹介するために昭和 38（1963）年に建設された。台風の被害で、現在見学できるのは映像資料と周辺史跡のみ。今回のツアーでは、教育委員会生涯学習課の学芸員が解説を行う予定。

●関根名人記念館：東宝珠花 237-1

関根金次郎 13 世名人は、関宿で生まれ、近代将棋の父と呼ばれた。宿敵だった坂田三吉との対局は有名である。平成 16 年 4 月 1 日に、いちいのホール 5 階に開館した施設で、愛用の将棋盤など名人ゆかりの品々を展示している。いちいのホール近くに、墓と記念碑もある。

●こうのとりの里

野田市の「自然と共生する地域づくり」のモデル地区「江川地区」にあり、飼育しているコウノトリの見学、コウノトリに関する展示を行っている。平成 24（2012）年からコウノトリの飼育を開始して以降、毎年ヒナが誕生し、放鳥が行われている。今回のツアーでは、飼育員による解説を予定。8 月 3 日今年生まれた「ハク」を放鳥。10 月 26 日より施設整備のため休館（再開未定）。

○山崎貝塚

縄文時代中期後半から晩期中ごろ（約 4000～3000 年）の遺跡で貝塚とともに竪穴住居跡が見つまっている。直径 130 メートル。

●東京理科大学なるほど科学体験館

建学の精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を発信し、地域から喜ばれる特色ある社会貢献を果たすこと目的として令和元（2019）年に開館した。体験型の展示により、科学技術の原理や本質を体験的に実感できる。

○利根運河

江戸末期、北海道や東北の生産物を大量に早く江戸へと届けるため、利根川と江戸川を使った舟運航路が利用された。しかし利根川と江戸川が分かれる部分である江戸川流頭部（現・野田市関宿地区）には、利根川の洪水時に江戸川への流入量を制限する棒出しが設置されており、水面幅が狭く航行最大の難所であった。

利根運河は、その難所を避けるため、江戸川～利根川間を結ぶバイパスの水運ルートとして、明治 23 年（1890）に完成した。運河の完成により、流頭部を通る航路よりも、距離にして約 40 キロ、時間にして 3 日から 1 日に短縮できるようになり、時間・費用が大きく軽減したことで、多くの船が運河を往来した。鉄道の進出により舟運が衰退し、航路としての役目を終える昭和 16 年（1941）までの約 50 年間で、利根運河には約 100 万隻、年平均 2 万隻もの船が利用し栄えた。

オランダ人技師ムルデルの監督・設計によるもので、明治 21 年（1888）から 23 年（1890）にかけて事業費約 57 万円、工事従事者は約 220 万人以上。

利根運河は、千葉県の流れ山市・柏市・野田市の 3 市に接し、利根川と江戸川を結ぶ全長 8.5km の運河。

●普門寺

下三ヶ尾にある曹洞宗のお寺で開山は寛永元（1624）年とされている。釈迦が入滅の時の光景を描いた「絹本着色釈迦涅槃図」（県指定有形文化財で今回特別に公開）や「閻魔大王像」（市指定有形文化財）が所蔵されている。

問合せ＝P R 推進室・直通 04-7199-2090

代表 04-7125-1111（内線 5000）

**野 田 市**